

時定吹朝倉之間、其調神也妙也、殿上地下各令感詞、

近衛召人

右近將監近方本拍子 同府生公方 遠兼 左府生助定 右府生重基 兼俊

頭中將爲服日數内、而於著座者不可憚、不可勤役之由頭辨被談申、仍不被立初獻勸盃、但祿時取之如何、

○按ズルニ、十二月ノ御神樂ハ恒例ノ事ニテ、毎年ニ行ハル、事ナレバ、以下皆之ヲ略ス、

〔江家次第十二〕内侍所御神樂事

代始被奉四十合御供、内藏每月一日被奉例供廿合、大盤所紙二帖、内藏寮絹五疋、爲定幣料、幣串八筋、黑塗平文也、

〔公事根源〕内侍所御供 同日○正月一日

是は毎月に供せらるゝ也、寛平年中に始まる、○中略かの一日の御供は毎月の事なり、御即位の時、はとり分て供せらるゝ事あり、それは吉日をえらばる、是はたゞ毎月の事なれば、日次の善惡にはよらず、内裏觸穢の時も、猶供せらるゝ例あり、またとゞめらるゝ事も侍るなり、

〔百練抄七條〕永曆元年四月廿九日、内侍所神鏡奉納、新造辛櫃、去年十二月廿六日、信賴卿亂逆之間、師仲卿破御辛櫃奉取御體、於桂邊經一宿、其後奉渡清盛朝臣六波羅亭、造假御辛櫃奉納、自師仲卿姉小路東洞院家所還、御温明殿也、左中將忠親朝臣依長久例候之、自今夜三箇夜御神樂、

〔百練抄後十鳥羽〕文治元年四月廿五日、戊刻神鏡重自鳥羽入御座朝所、權中納言經房卿、參議泰通卿、權辨兼忠朝臣、已下次將等供奉、大夫判官義經等奉相具若宮御入洛、侍從信清相具院御車奉迎云、廿七日、自閑院行幸大内、内侍所自官朝所渡御温明殿、自今夜三箇日有御神樂事、神璽同奉渡也、